

二〇一八年度

早稲田大学大学院文学研究科

入学試験問題

【修士課程】

専門科目 東洋史学

コース

※解答は別紙(縦・横書)

「一」 次の六問(イ・ロ・ハ・ニ・ホ・ヘ)から二問を選択し、また設問に答えなさい。解答は解答用紙に選択した問題番号を明記しなさい。漢字は常用漢字で表記してもよい。

イ 次の史料の全文を現代日本語に訳しなさい。

代王曰、「宗室將相王列侯以爲莫宜寡人、寡人不敢辭」。遂即天子位。羣臣以禮次侍。乃使太僕嬰與東牟侯興居清宮、奉天子法駕、迎于代邸。皇帝即日夕入未央宮。乃夜拜宋昌爲衛將軍、鎮撫南北軍。以張武爲郎中令、行殿中。還坐前殿。於是夜下詔書曰、「間者諸呂用事擅權、謀爲大逆、欲以危劉氏宗廟、賴將相列侯宗室大臣誅之、皆伏其辜。朕初即位、其赦天下、賜民爵一級、女子百戶牛酒、酺五日」。

設問 傍線の文の意味する歴史的背景について述べなさい。

ロ つぎの史料の全文を現代日本語に訳しなさい。また、後の問いに答えなさい。

凡天下人戸、量其資産、定爲九等。每三年、縣司注定、州司覆之。百戸爲里、五里爲郷。四家爲鄰、五家爲保。在邑居者爲坊、在田野者爲村。村坊鄰里、遞相督察。士農工商、四人各業。食祿之家、不得與下人爭利。工商雜類、不得預於士伍。男女始生者爲黃、四歲爲小、十六爲中、二十一爲丁、六十爲老。每歲一造計帳、三年一造戶籍。州縣留五比、尙書省留三比。神龍元年、韋庶人爲皇后、務欲求媚於人、上表請以三十三爲丁、五十八爲老、制從之。及韋氏誅、復舊。至天寶三年、又降優制、以十八爲中男、三十三爲丁。天下籍始造四本、京師及東京尙書省、戶部各貯一本、以備車駕行幸、省於載運之費焉。

〔問〕計帳の一種「差科簿」とはどのような台帳か。簡潔に説明しなさい。

ハ 次の文章を全て日本語訳し、波線を付した「公田」について、本文をふまえて説明せよ。

似道内引入割、力言其便、上從其言、三省奉行惟謹。似道遂以自己浙西萬畝爲公田、倡嗣榮王繼之、趙立奎自陳投賣(一)。自是朝野無敢言者。獨禮部尚書徐涇孫疏言買田之害、以言不行、乞致仕。公田初議以官品逾限田外買官田、猶有抑强嫉富之意、繼而敷派(二)、除二百畝以下者免、餘各買三分之一。其後、雖百畝之家亦不免。立價以租一石者、償十八界會四十楮、不及者減買數。稍多則銀絹各半(三)、又多則以度牒、告身、準直登仕三千楮、將仕千楮、許赴漕試、校尉萬楮、承信萬五千楮、承節二萬楮、則理爲進納。安人四千楮、孺人二千楮(四)。

二次の史料を読み、以下の問いに答えなさい。

- 一、全文を現代日本語に訳しなさい。
- 二、この史料に描かれている「会」の名称と、この時代の「会」の歴史的な背景について述べなさい。

王之代有閼川公・林宗公・述宗公・虎林公之義・廉長公・庾信公。會于南山于知巖・議國事。時有大虎走入座間。諸公驚起。而閼川公畧不移動。談笑自若。捉虎尾撲於地而殺之。閼川公膂力如此。處於席首。然諸公皆服庾信之威。新羅有回靈地。將議大事。則大臣必會其地謀之。則其事必成。一東曰青松山。二曰南山。知山。三曰西皮田。四曰北金剛山。

木 次の資料を読み、以下の問いに答えなさい。

- 一、全文を現代日本語に訳しなさい。
- 二、この資料の筆者と、資料に記された内容について、歴史的な背景を当時の状況をふまえて具体的に述べなさい。

日本人の 朝鮮古蹟 考查事業은, 아마 세계의 인류에게 영원한 感謝를 받을 일인지도 모르고, 또 우리들도 다름이 틈에 끼여서 남만한 感謝를 주는 것이 當然한 일이지마는, 제가 할 일을 남이 한——남도 하는 데저는 모든 채한——내 집 세간을 살살이 들추어 내는 남이 있는 줄을, 임자라고 기척도 하지 못한 것이, 어떻게 廉恥없고 面目없는 일임을 생각하면——이 부끄럼이 언제까지든지 사라지지 아니 할 것임을 생각하면, 감사하리란 勇氣조차 나오지를 못할 것이다. 우리가 이제 民族의 大覺醒을 가진 것은 사실이다. 그러나 그 覺醒은 아직 一混沌이다. 明瞭한 자각은 마땅히 整齊한 내용을 가질 것이다. 이름을 求하기 前に 實相을 만들 것이다. 이름도 찾겠지마는 實相이 다르게 할 것이다. 이름에 큰 精神을 차린 다음에는, 다시 한번 實相에 깊은 정신을 차릴 것이다. 精神부터 獨立할 것이다. 思想으로 獨立할 것이다. 學術에 독립할 것이다. 특별히 自己를 護持하는 精神, 自己를 발휘하는 思想, 自己를 究明하는 學術의 上으로 絶對한 自主, 완전한 獨立을 實現할 것이다. 朝鮮人の 손으로 「朝鮮學」을 세울 것이다. 朝鮮의 피가 속에 들고, 朝鮮의 김이 길에서 리는, 活潑潑한 大朝鮮經典을 우리 자리에서 우리 힘으로 만들어 놓을 것이다. 부끄러운 줄 알 것이다. 發奮할 것이다. 나를 내가 알아 들 것이다. 내 生命의 샘을 내 손으로 칠 것이다. 내 榮光의 복을 내 손으로 도를 것이다.

へ つぎの問題A、または問題Bのいずれかに答えなさい。

問題A

- ① つぎの史料の全文を現代日本語訳しなさい。
② 傍線部に述べられている状況が生じた背景として、どのようなことが考えられるか、説明しなさい。

寛永爲日本紀年、其錢文曰「寛永通寶」。乾隆間、以沿海地方行使寛永錢甚多、疑爲私鑄、諭令江蘇、浙、閩各督撫、窮治開鑄造寶之人。經兩江督臣尹繼善、江蘇撫臣莊有恭疏奏、此種錢文、乃東洋倭人所鑄、由商船帶回、漏入中土、因定嚴禁商舶攜帶倭錢、及零星散布者、官爲收買之例。當時原疏引朱竹垞集內載有「吾妻鏡」一書、有寛永二年序、又徐編修葆光「中山傳信錄」內載、市中皆行寛永通寶爲據。事載「高宗實錄」。

問題B

- ① つぎの文章の全文を日本語訳しなさい。
② 下線部に関して清朝がとった政策の変遷について説明しなさい。

The continuing attempt to balance labor needs in Xinjiang against the threat posed by too great an accumulation of criminals prompted a policy of switching exile destinations between points in Manchuria and in Xinjiang, as convenient. Yet this produced unsatisfactory results. In the first place, increasing the number of exiles sent to Manchuria contradicted the unabated, if unrequited, desire to preserve what still remained of the ethnic integrity of the northeast. On the other hand, unless criminals continued to be sent to Manchuria, more would arrive in Xinjiang than could be absorbed easily into the already potentially volatile society of that new frontier.

※Web公開にあたり、著作権者の要請により出典追記しております。
Joanna Waley-Cohen, "Exile in Mid-Qing China", ©
Yale University Press, 1991

【二】 次の語句の中から三つを選び、それぞれについて説明しなさい。

- | | |
|--------|-----------|
| ① 圈地 | ② 包衣 |
| ③ 天地会 | ④ 京師同文館 |
| ⑤ 神道碑 | ⑥ アユルバルワダ |
| ⑦ 猛安 | ⑧ 靖難の変 |
| ⑨ 骨品制 | ⑩ 新羅村落文書 |
| ⑪ 新羅下代 | ⑫ 楽浪戸口統計簿 |
| ⑬ 赫連勃勃 | ⑭ オルホン碑文 |
| ⑮ 府兵制 | ⑯ 過所 |
| ⑰ 皇帝号 | ⑰ 列侯 |
| ⑱ 郷拳里選 | ⑳ 豪族 |

受験番号	
氏名	

この欄以外に受験番号氏名を書かないこと。

[一]

——ここから記入すること——

東 洋 史 学

総 頁

--

(表へ続く)

「れより先の余白には絶対に記入しないこと」

受験番号	
氏名	

この欄以外に受験番号氏名を書かないこと。

———ここから記入すること———

東洋史学

答 案

--

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

受験番号	
氏名	

この欄以外に受験番号氏名を書かないこと。

[二]

———ここから記入すること———

東 洋 史 学

総 点

--

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——